

北海道大学大学院経済学研究科
修士課程（博士コース，専修コース）第2次 入学試験

平成28年度 専門科目 試験問題

試験期日：平成28年1月27日

試験時間：9時00分～10時30分

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで，この問題冊子を開いてはならない.
2. 問題は，

マクロ及びミクロ経済学	2～4ページ
経営学	5ページ

である.
3. 問題冊子の中から出願時に選択した科目について解答しなさい.
4. 受験番号，氏名，選択科目・分野名は，監督員の指示にしたがって指定された箇所に記入しなさい.
5. 解答用紙に解答する際に，問題番号・記号があれば解答の前に必ず記入しなさい.
6. 解答用紙が不足した場合には挙手して監督員に連絡しなさい.
7. 試験場退出は試験開始30分が経過するまで認めない.

マクロ及びミクロ経済学

問題Ⅰ，問題Ⅱの両方に解答しなさい。

問題Ⅰ．総需要曲線と総供給曲線を考える．以下のすべての問題を解答しなさい．

〔総需要曲線〕

生産物市場： 需給均衡式 $Y = C + I + G$

消費関数 $C = 0.8(Y - T)$ ，租税関数 $T = \frac{1}{4}Y$ ，

投資関数 $I(r) = 130 - 2r$ ，政府支出 $G = 80$

貨幣市場： 需給均衡式 $\frac{M}{P} = 0.1Y + L(r)$

名目貨幣残高 $M = 200$ ，投機的貨幣需要関数 $L(r) = 160 - 2r$

ここで， Y は国民所得， C は消費， T は税， I は投資， r は利子率， M は名目貨幣残高， P は物価水準である．

〔総供給曲線〕

A. フィリップス曲線： $\frac{w - w_{-1}}{w_{-1}} = -(u - u^*)$ (a)

ここで， w と w_{-1} はそれぞれ今期と前期の賃金率を示し， u と u^* はそれぞれ失業率と自然失業率を示す． $u^* = 0$ および

$u = \frac{L_F - L}{L_F}$ (b)

とする．ここで， L と L_F はそれぞれ労働量と完全雇用水準の労働量を示す．

B. 生産関数： $Y = L$ (c)

完全雇用水準の国民所得を $Y_F = 600$ とする．(c)式から完全雇用水準の雇用は， $L_F = 600$ ．

C. マークアップ方式： 企業は賃金 wL にマークアップとして 20% 上乗せして価格 P を設定する．つまり，

$PY = 1.2wL$ (d)

前期の物価水準を $P_{-1}=1.2$ とする。

1. 生産物市場と貨幣市場の需給均衡式を用いて総需要曲線(AD)を導出しなさい。
2. 総供給曲線(AS)は、上記のフィリップス曲線とマークアップ方式で導出される。総供給曲線を導出するため、(1)から(4)の問いに答えなさい。
 - (1) (c)と(d)式から、 $P=1.2w$ を導出しなさい。同様に、 $P_{-1}=1.2w_{-1}$ が成立することを示しなさい。
 - (2) (c)式から $Y_F = L_F$ となるので、(b)式は $u = \frac{Y_F - Y}{Y_F}$ となることを示しなさい。
 - (3) 上記(1)と(2)の結果と $u^*=0$ を(a)式に代入し、以下の総供給曲線の式を導出しなさい。
$$P = P_{-1} \left[1 + (1/Y_F)(Y - Y_F) \right] \quad (e)$$
 - (4) 上記(3)の結果に $P_{-1}=1.2$ と $Y_F=600$ を(e)式に代入し、総供給曲線(AS)の具体的な式を示しなさい。
3. 問い1.と2.の結果を用いて、短期均衡 E における国民所得 Y と物価水準 P の値を求めなさい。
4. 長期均衡 $\hat{E}$ を、完全雇用水準 $Y_F=600$ が実現し、物価水準 P が時間を通じて一定となる組み合わせ(Y, P)とする。ここで、国民所得 Y が完全雇用水準 Y_F に達しないならば、物価水準 P は下落すると仮定する。長期均衡 $\hat{E}$ における物価水準 P の値を求めなさい。さらに、長期均衡 $\hat{E}$ における総供給曲線 (AS') の式を示しなさい。
5. 横軸に Y ，縦軸に P をとり、総需要曲線(AD)，総供給曲線(AS と AS')，短期均衡 E ，および長期均衡 $\hat{E}$ を図示しなさい。

問題Ⅱ． A 社と B 社が生産量において競争しているとする．需要曲線が $Q = 100 - P$ であり，企業の限界費用がそれぞれ $c^A = 10$ 及び $c^B = 30$ の場合，以下の質問に答えなさい．なお，解を導く式の過程も示し，図については（軸名など）適宜説明を表記しなさい．

1. 最適反応関数を導出し，図示しなさい．
2. B 社の市場占有率を求めなさい．
3. A 社は既に市場に参入しており，B 社が新規参入企業だとする．B 社の参入費用を F^B とした場合，B 社が参入を諦める F^B の最低金額を求めなさい．

経営学

問題Ⅰ，問題Ⅱの両方に解答しなさい。

問題Ⅰ．戦略的マーケティング論と関係性マーケティング論のそれぞれについて説明しなさい。また両者における製品差別化の違いについて説明しなさい。

問題Ⅱ．「強い組織文化があると，組織成員の行動に関する公式化の程度は低くなる」との主張を検討し，論述しなさい。